

講義コード	1058	科目区分	専門教育科目(ビジネス文化専攻)
(フリガナ)	コクサイコミュニケーションロン	(フリガナ)	イ ムンサン
授業科目名	国際コミュニケーション論	担当教員名	李 文相
英文授業科目名	International communications theory		
基準年次(開講期)	2年次(前期)	履修形態	選択
曜日/時限/講義室	水曜日/2時限/312教室		
授業の方法	講義	授業の方法 (詳細情報)	講義は板書と映像機器を活用して行う。
単位	2	週時間	2
授業のキーワード	異文化コミュニケーション、言語構造、言動様式、言語意識		
授業概要・目的	<p>本授業の主なポイントは次の3つです。</p> <p>1) 日本と異なるアジアや欧米のコミュニケーション問題を取り上げる。</p> <p>2) 国際的視点からコミュニケーション上の異文化摩擦について探る。</p> <p>3) 言語を類型論的に分類し、言語の違いによるコミュニケーションのあり方について学ぶ。</p>		
到達度評価の 評価項目	<p>到達度評価項目は次の三つです。</p> <p>1) アジア諸国と欧米の言語構造や言動様式の違いについての考察力。</p> <p>2) 漢字文化圏の言語構造を手掛かりにした、似て非なる異文化への理解力。</p> <p>3) 異文化摩擦について原因を究明しようとする意欲。</p>		
授業計画			
第1回	<p>ガイダンス</p> <p>授業の進め方と受講上の留意点。テキストの案内。</p>		
第2回	<p>異文化コミュニケーション</p> <p>アジアと欧米間のコミュニケーション摩擦とその背景について(意見交換)。</p>		
第3回	<p>言語の類型論的比較</p> <p>日本語・英語・中国語の類型論的比較と考察。</p>		
第4回	<p>言語習慣と言動様式比較</p> <p>ことわざを手掛かりに、日本語と韓国語の似て非なる両国人の行動様式を理解する。</p>		
第5回	<p>漢字文化圏の発想(1)</p> <p>中国語と日本語と韓国語の漢字の比較から見える意味の違い。</p>		
第6回	<p>漢字文化圏の発想(2)</p> <p>中国語と日本語と韓国語の漢字の比較から見える考え方の違い。</p>		
第7回	<p>精神文化と言動様式</p> <p>宗教観や精神文化に見られる言動習慣の違い。</p>		
第8回	<p>異文化摩擦の要因</p> <p>民族主義や国家主義にかかわる異文化摩擦。</p>		
第9回	<p>フェイクニュース</p> <p>フェイクニュースの実態について意見交換する。</p>		
第10回	<p>SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)</p> <p>コミュニケーション手段とSNSについて意見交換する。</p>		
第11回	<p>非言語コミュニケーションと異文化(1)</p> <p>非言語コミュニケーションの異文化行動様式について意見交換する。</p>		
第12回	<p>非言語コミュニケーションと異文化(2)</p> <p>非言語コミュニケーションの異文化精神構造について意見交換する。</p>		
第13回	<p>映画上映</p> <p>映画鑑賞後、言語とコミュニケーションの関係について意見交換する。</p>		
第14回	<p>対外国人観について</p> <p>異文化コミュニケーションの事例を考察し、その結果を発表する。</p>		
第15回	<p>総括・まとめ</p> <p>前期授業の総括をする。</p>		
教科書・参考書等	各回毎に、関連資料を配布する。		
授業で使用する 機器等	映像機器を使用する。		
予習・復習への アドバイス	意見交換会に即応できるように、新聞等によって海外情報に目を通しておく。		
履修上の注意・ 受講条件等	<ul style="list-style-type: none"> ・必ず復習をし、意見を持ってから授業に臨むこと。 ・専用のノートを持参すること。 		
成績評価の基準等	<p>以下の観点から評価する</p> <p>1) 授業に取り組む姿勢(20/100)</p> <p>2) 授業内での意見発表(30/100)</p> <p>3) 授業内で行う小レポート(20/100)</p> <p>4) 課題レポート提出(30/100)</p>		
メッセージ	遅刻厳禁。授業中の携帯電話は電源を切る。		
オフィス・アワー	火曜日の午前(9:00-12:00)		
その他	毎回、意見発表できるように事前準備をしておく。		